

NSG

GROUP





NSG グループ
2019年3月期第1四半期決算報告
(2018年4月1日～ 2018年6月30日)

日本板硝子株式会社
2018年8月2日

諸岡 賢一

代表執行役副社長兼CFO

クレメンス・ミラー

代表執行役副社長兼COO

イアン・スミス

執行役員 グループファイナンス担当ディレクター

NSGグループ・2019年3月期第1四半期決算説明会にご参加いただき、ありがとうございます。

CFOの諸岡です。

本日の説明会には、私とCOOのクレメンス・ミラー、そしてグループ・ファイナンス担当ディレクターのイアン・スミスが同席しております。

目次

1. 2019年3月期第1四半期 決算概要
2. 2019年3月期第1四半期 事業状況
3. その他の取り組み状況
4. まとめ

4ページは、本日の説明内容となります。

私から、2019年3月期第1四半期決算の概要、事業業績、そしてその他のトピックスについて説明いたします。

2019年3月期第1四半期 決算ハイライト



売上高	1,584億円 (前期比 +9%)	欧州を中心にVA製品の販売増や好調な市場環境を反映し増収
無形資産償却前 営業利益	102億円 (+12%)	欧州自動車用ガラス、高機能ガラスを中心とした改善により増益
個別開示項目	24億円	ベトナムの休止フロート窯再稼働に伴う減損損失の戻入益を計上
親会社所有者に 帰属する当期利益	54億円 (+131%)	個別開示項目において一過性の収益計上もあり、前期比増益
フリー・キャッシュ・フロー	△106億円	運転資本の季節変動によりほぼ前年並

VA製品の販売増や世界的に好調な市場環境を反映し、増収増益を達成

2018年8月2日 | 2019年3月期第1四半期決算報告

5

5ページをご覧ください。2019年3月期第1四半期のハイライトです。

売上高は、欧州を中心にVA製品の販売増や好調な市場環境を反映し、前年比9%増の1,584億円となりました。

無形資産償却前営業利益は、引き続き改善しています。特に欧州自動車用ガラス、高機能ガラスを中心とした改善により102億円となり、前年比プラス11億円、プラス12%の増益となりました。

個別開示項目では、本日開示しました通り、ベトナムの休止フロート窯の再稼働に伴う減損損失の戻入益 27億円を計上したことで24億円のプラスとなりました。

親会社所有者に帰属する当期利益は、営業利益の増加や、個別開示項目にて一過性の収益を計上したこともあり、前年比131%の54億円となりました。

また、フリー・キャッシュ・フローは、運転資本の季節変動によりほぼ前年並の106億円のマイナスとなりましたが、通期では例年通りキャッシュ創出基調に向け、改善することを見込んでいます。

連結損益計算書



(億円)	2018年3月期	2019年3月期	2019年3月期	2019年3月期
	4月-6月期 ^{*1}	4月-6月期	上半期	通期
売上高	1,453	1,584	3,100	6,300
無形資産償却前営業利益	91	102		430
償却費 ^{*2}	(5)	(5)		(20)
営業利益	86	97	180	410
個別開示項目	(4)	24		(70)
金融費用(純額)	(39)	(32)		(130)
持分法による投資損益	3	4		30
税引前利益	46	93		240
当期利益	27	60		160
親会社の所有者に帰属する当期利益	23	54		140
EBITDA	154	167		

*1：IFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」の適用により、修正再表示を行っております。

*2：ビルキントン買収に伴って発生した無形資産の償却

通期計画達成に向けて堅調なスタート

2018年8月2日 | 2019年3月期第1四半期決算報告

6

6ページですが、連結損益計算書になります。左から「前年同期の実績」、「当第1四半期の実績」、「上半期の計画」、「当年度通期の計画」の順に並べております。

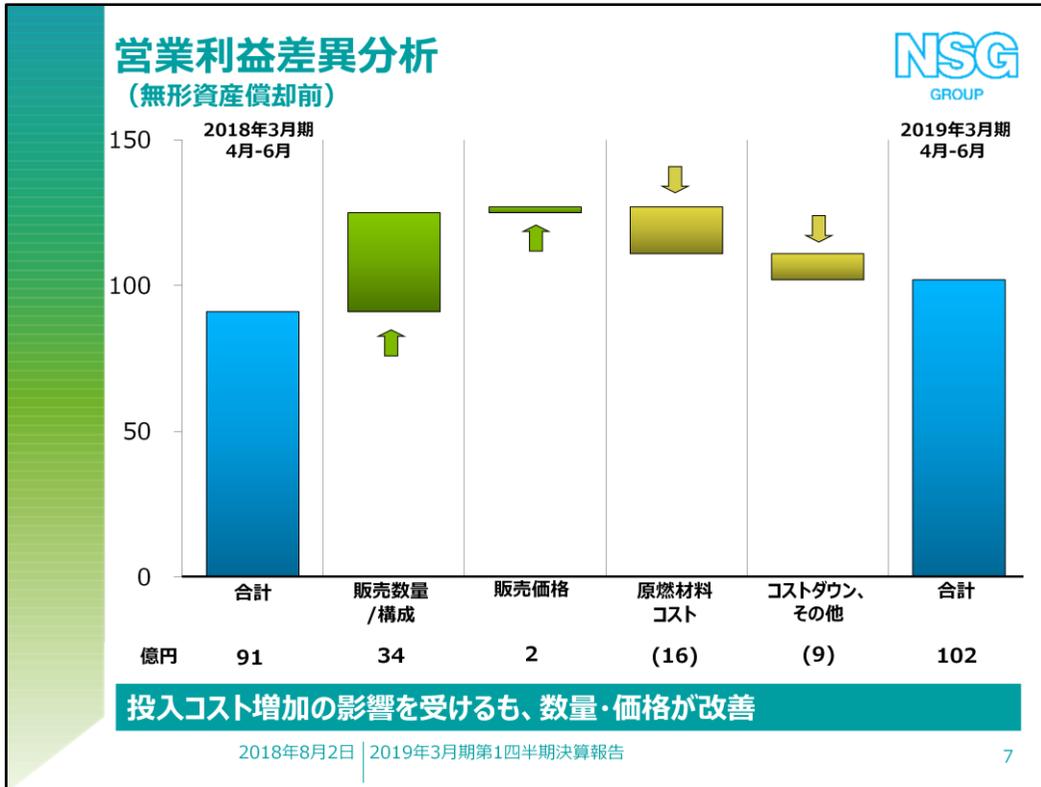
当期より、当社グループはIFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」を適用しており、そのため前年度の数字の修正再表示を行っております。本資料の最後に添付しております補足資料でもご確認いただけますが、この会計基準の適用による影響は軽微であります。

売上高、営業利益については、先ほどお示した通りです。

個別開示項目では、先ほどご説明の通り、24億円のプラスとなっておりますが、今後、収益改善のためのリストラクチャリング費用を中心に費用を計上することから、通期では年度計画の数字に近づく見込みです。

親会社の所有者に帰属する当期利益は、営業利益の改善に加え、ネット金融費用の減少と持分法による投資損益の改善により、前年を上回る54億円となりました。

5月に公表しました中間期及び年度の業績見込に変更はありません。



7ページへ移ります。ここでは、無形資産償却前営業利益について、前年との差異について説明しています。

「販売数量/構成」ですが、建築用ガラス事業の欧州とアジア、自動車用ガラスの欧州、高機能ガラスなどでVA品の売上増により改善しています。

「販売価格」ですが、全ての事業において安定的に推移しています。

「原燃材料コスト」は、エネルギー・コストの他、輸送費、原材料費が増加していますが、年度計画において想定していたレベルに収まっています。

「コストダウン、その他」ですが、ドイツの窯の定修など一過性の費用の影響を受け、マイナスとなっていますが、当社のコストベースを下げて、インフレによるコスト増をカバーする方針に変わりありません。

主要財務指標 (KPI)



	2017年6月末 ^{*1}	2018年6月末	2018年3月末 ^{*1}
ネット借入 (億円)	3,319	3,198	3,065
ネット借入/EBITDA	5.4x	4.9x	4.8x
ネット借入/純資産比率	2.4x	2.4x	2.1x
自己資本比率	17.1%	16.6%	17.1%
	2018年3月期 4月-6月期 ^{*1}	2019年3月期 4月-6月期	2018年3月期 ^{*1}
営業利益率 ^{*2}	6.3%	6.4%	6.3%

*1: IFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」の適用により、修正再表示を行っております。

*2: 無形資産償却前営業利益

前年同期対比でネット借入削減、ネット借入/EBITDAの改善

2018年8月2日 | 2019年3月期第1四半期決算報告

8

8ページは、主要財務KPIの一覧になります。

左から「前年同期の実績」、「当第1四半期の実績」、「前年度末」の順に並べております。

「ネット借入」は、主として運転資本の季節的な増加の影響を受け、前年度末から133億円増加し、3,198億円となりました。

「自己資本比率」は、円高に伴う為替換算の影響もあり、16.6%となりました。

「営業利益率」は、事業業績の改善を反映し、前年同期の6.3%から6.4%へ安定的に改善傾向にあります。

目次

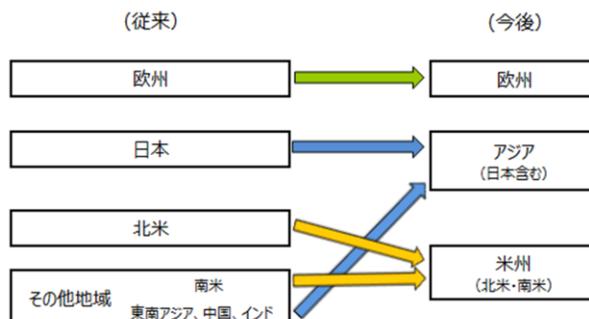


1. 2019年3月期第1四半期 決算概要
2. 2019年3月期第1四半期 事業状況
3. その他の取り組み状況
4. まとめ

決算説明資料の様式変更および地域区分の変更について

既存開示資料および内部管理体制等との一貫性確保のため、
今回より以下の変更を実施

- (1) 決算説明資料の説明様式を、「地域別」から「事業別」に変更
- (2) 開示地域区分を以下の通り変更
 - 各事業の売上の地域別明細を「欧州」「アジア」「米州」に
 - 地域別営業利益（補足資料に記載）は、上記3地域及び「その他部門（本社コスト）」に区分して表示



2018年8月2日 | 2019年3月期第1四半期決算報告

10

10ページでは、今回から決算説明資料の様式変更および地域区分の変更を行いました件について、簡単にご説明させていただきます。

変更点としては、

- (1) 決算説明資料の説明様式を、「地域別」から「事業別」に変更したこと、
- (2) 開示地域区分について、各事業の売上の地域別明細を「欧州」「アジア」「米州」に変えたこと、

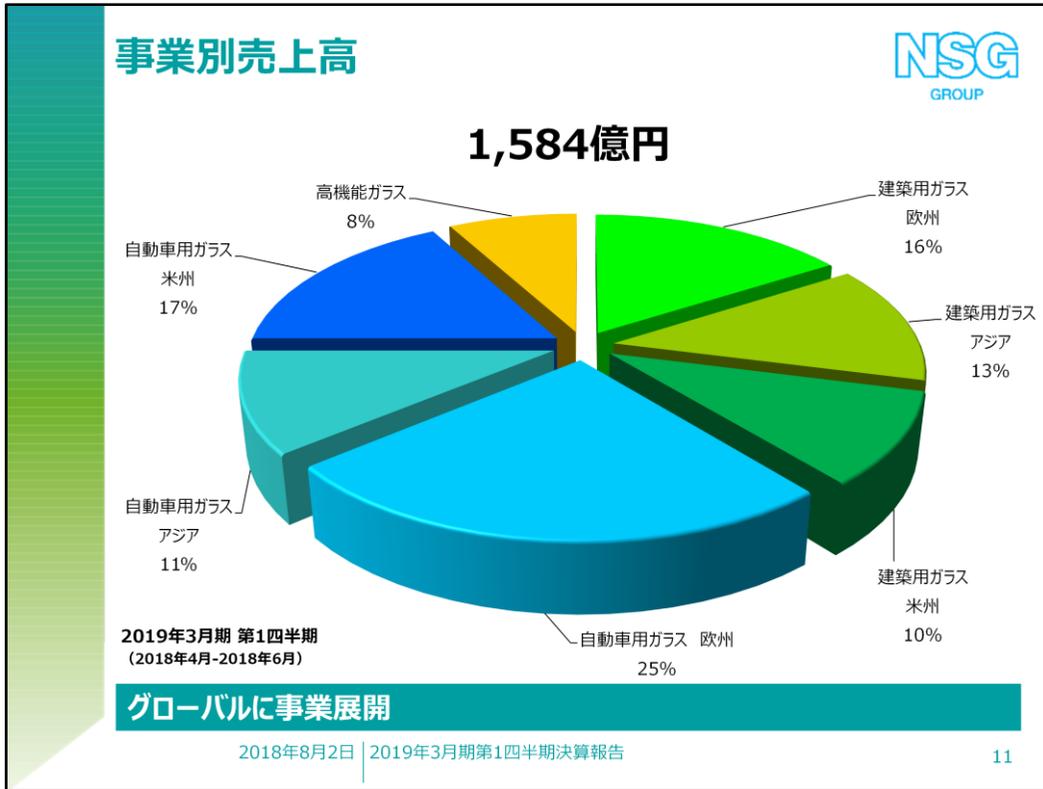
また補足資料に記載の地域別営業利益は、この3地域及び「その他部門（本社コスト）」に区分して表示させたことです。

今回の変更の趣旨は、短信や有報といった既存の開示資料、および内部管理体制等の一貫性を確保し、投資家の皆様へ首尾一貫した情報をわかりやすく提供するために行ったものであります。

地域の分けについては図でご覧いただいた通り、従来は「その他地域」としていた地域について、「東南アジア等の日本以外のアジア」は「日本」と合わせて「日本を含むアジア」として、また「南米」については、「北米」と一体化させて「米州」として区分変更を実施いたします。

今後、当社の事業状況と成長戦略がより分かりやすくなるよう、都度見直し・改善は行っていきたいと考えております。

また、今回変更になった点についても十分にご説明させていただきたいと思っております。



【注：このスライドは、当社グループの事業セグメント毎の売上高の構成比を示しています。

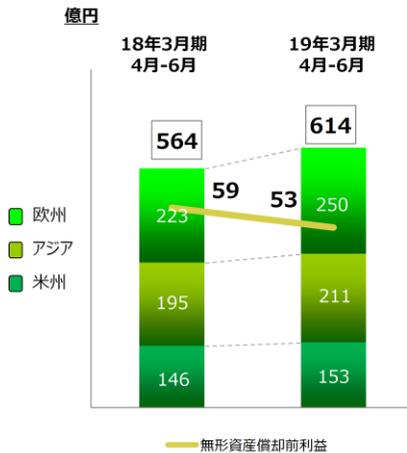
当社グループの売上高の事業別構成比は、

建築用ガラス事業	39%
自動車用ガラス事業	53%
高機能ガラス事業	8%

地域別では、

欧州	43%
日本を含むアジア	30%
米州	27% となっています。】

建築用ガラス事業 2018年3月期第1四半期との比較



欧州（増収・減益）

- 数量、価格とも改善し増収の一方、定修コストや投入コスト増加の影響を受け減益

アジア（増収・増益）

- 日本は厳しい市況の中、売上は横ばい。原油価格上昇等によるコスト増の影響を受け減益
- 東南アジアはソーラー用ガラスの出荷増により増収増益

米州（増収・利益横這い）

- 北米は好調な需要とオタワ工場再稼働の効果で増収増益
- 南米は好調な市況を受け、現地通貨ベースで増益

欧州を中心に数量増による増収の一方、投入コスト増等の影響を受け減益

2018年8月2日 | 2019年3月期第1四半期決算報告

12

12ページへ移ります。ここでは当社グループの建築用ガラス事業の業績についてご覧いただけます。

建築用ガラス事業全体では、売上高は前年同期比9%増の614億円になりましたが、利益は前年同期比6億円減少し、53億円になりました。

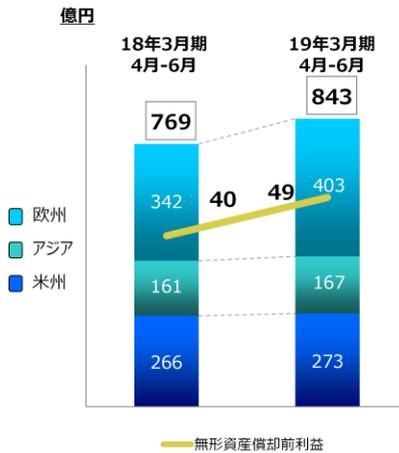
各地域の状況ですが、

欧州は好調な需要に支えられ、数量、価格ともに改善し、増収となりました。一方、ドイツにおけるフロート窯の定修やエネルギー関連の投入コストの影響を受け、利益は減少しましたが、一過性の要因が大半であるとご理解ください。

アジアですが、日本は厳しい市況に加えて、原油価格の上昇による投入コストの増加等の影響を受け、減益となりました。一方、東南アジアはソーラー用ガラスの出荷増が寄与し、増収増益になりました。

米州ですが、北米ではオタワ工場の再稼働に加え、好調な市場の恩恵を受けました。南米の市場は好調に推移しており、現地通貨ベースでは増益となりました。

自動車用ガラス事業 2018年3月期第1四半期との比較



欧州（増収・増益）

- 堅調な市況に加え、当社VA製品出荷が新車用、補修用ともに好調で増収増益

アジア（増収・増益）

- 日本は出荷、生産ともに安定的に推移、売上・利益ともに伸長
- 東南アジアの売上は改善の一方、中国は減収

米州（増収・減益）

- 北米は出荷が堅調な一方、一過性費用の発生により減益
- 南米は数量回復により業績改善継続

ほぼ全地域で増収。欧州は販売増とVA比率上昇により増益

2018年8月2日 | 2019年3月期第1四半期決算報告

13

13ページは自動車用ガラス事業です。

自動車用ガラス事業全体では、売上高は前年同期比10%増の843億円、利益は前年同期比23%増の49億円になりました。

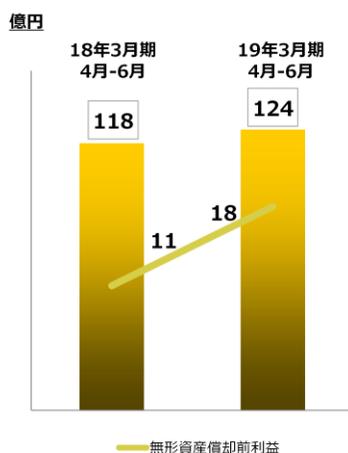
各地域の状況ですが、

欧州は、VA製品の出荷が拡大していることに加えて、堅調な市場の影響を享受し、増収増益となりました。

アジアですが、日本は新車向けガラスの販売数量が安定的に推移する一方で、生産の安定効果と補修用ガラスの販売増により、全体として増収増益となりました。

米州ですが、北米では出荷が堅調に推移しましたが、一過性の費用の発生により減益となりました。南米では、ブラジルでトラック運転手によるストライキの影響を受けましたが、販売数量の回復により、継続して業績が改善基調にあります。

高機能ガラス事業 2018年3月期第1四半期との比較



高機能ガラス事業（増収・増益）

- ディスプレイは売上増とコスト改善により損益改善
- プリンター用レンズの需要は底堅く推移
- グラスコードは自動車市況を反映し堅調
- メタシャインは自動車用塗料、化粧品向けの販売が増加
- バッテリーセパレーター市場も好調

各製品とも市場は堅調

2018年8月2日 | 2019年3月期第1四半期決算報告

14

14ページの高機能ガラス事業へ移ります。

高機能ガラス事業全体では、売上高は前年同期比5%増の124億円、利益は64%増の18億円になりました。

セグメント別の状況ですが、

ディスプレイは、売上の増加と前年度に実施したコスト・ベースの改善により、損益が改善しています。

プリンター用レンズの需要は堅調に推移しています。

エンジンのタイミングベルトに使用されるグラスコードは、自動車市況を反映し堅調に推移しています。

以上が事業別の概況になります。

メタシャインは自動車用塗料や化粧品の分野での堅調な需要により、販売が増加しました。

バッテリーセパレーター市場も、自動車用途を中心に好調に推移しています。

目次



1. 2019年3月期第1四半期 決算概要
2. 2019年3月期第1四半期 事業状況
3. その他の取り組み状況
4. まとめ

その他の取り組み状況



- **BIC（ビジネス・イノベーション・センター）**
 - ・7月1日に計画通り発足
 - ・センター長として石野執行役CDO（元・村田製作所）が就任
 - ・新規事業の開発育成加速、「Shift to “VA + Growth”」を推進
- **統合報告書**
 - ・当社グループ初の統合報告書を発行（7月30日）。
従来のアニュアルレポート、サステナビリティレポートを置き換え
 - ・価値創造プロセスと持続可能な成長に向けた取り組みについて紹介
(<http://www.nsg.co.jp/ja-jp/investors/ir-library/annual-reports>)

2018年8月2日 | 2019年3月期第1四半期決算報告

16

16ページでは、直近のトピックスについて簡単にご紹介させていただきます。

まず、ビジネス・イノベーション・センター（BIC）ですが、6月18日にアナウンスしました通り、7月1日に計画通り発足し、センター長として、元・村田製作所の石野執行役最高開発責任者(CDO)が就任いたしました。今後、新規事業の開発育成加速、「Shift to “VA + Growth”」をさらに推進してまいります。

また、統合報告書ですが、7月30日にアナウンスしました通り、当社グループ初の統合報告書を発行いたしました。

従来のアニュアルレポート、サステナビリティレポートを置き換え、当社独自の技術や強みを生かした製品・サービスを社会に提供し続けることで『価値創造プロセス』を循環させていくことと、持続可能な成長に向けたESG課題への精力的な取り組みについて紹介しております。弊社ウェブサイトに掲載しておりますので、ぜひご覧いただければと思います。

目次



1. 2019年3月期第1四半期 決算概要
2. 2019年3月期第1四半期 事業状況
3. その他の取り組み状況
4. まとめ

● 第1四半期決算

- 前年同期比で増収増益。堅調なスタート
- 欧州を中心にVA製品の伸長や好調な市場環境を反映し、増収
- 欧州自動車用ガラスや高機能ガラス等での業績改善により営業増益
- 営業利益の改善や一過性の個別開示収益計上もあり最終利益も増益

● 今後の見通し

- 第1四半期実績は計画通り。通期業績予想に変更なし
- 営業利益6期連続増益に向けて着実に前進

最後に、18ページはまとめになります。

今回の第1四半期決算は、前年同期比で増収増益となり堅調なスタートとなりました。VA製品の伸長や好調な市場環境を反映し増収となり、特に欧州自動車用ガラスや高機能ガラス等での業績改善により営業増益となりました。更に一過性の個別開示収益計上もあり最終利益も増益となっております。

今後の見通しとしましては、第1四半期実績は計画通りであり、通期業績予想の変更も予定しておりません。

当社が事業を行う市場は全体に堅調に推移すると見ております。建築用ガラスにおいて、引き続き欧州は安定、ソーラー用ガラスの需要増を想定しています。

自動車用ガラスでは欧州の収益拡大継続と南米の需要回復、高機能ガラスにおいてはディスプレイ事業を中心に改善継続と見ております。
その他の事業、地域についても安定的に推移すると見ております。

一方、個別開示項目は、今後収益改善のためのコストの発生を想定しています。

営業利益6期連続増益に向けて着実に前進してまいりたいと考えております。

これにて、本日の説明は終了させていただきます。ご清聴ありがとうございました。

当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場（欧州、日本、北米、アジア等）の経済環境及び製品需給の変動、為替相場の変動等があります。

日本板硝子株式会社

補足資料

- 決算補足資料
 - 事業部門別・地域別売上高
 - 事業部門別・地域別償却前営業利益
 - 連結貸借対照表
 - 連結キャッシュ・フロー
 - 個別開示項目
 - 為替レート

事業部門別・地域別売上高

2018年3月期第1四半期との比較



(億円)	2018年3月期 4月-6月期*	2019年3月期 4月-6月期	増減
建築用ガラス	564	614	50
欧州	223	250	27
アジア	195	211	16
米州	146	153	7
自動車用ガラス	769	843	74
欧州	342	403	61
アジア	161	167	6
米州	266	273	7
高機能ガラス	118	124	6
欧州	19	21	2
アジア	96	99	3
米州	3	4	1
その他	2	3	1
合計	1,453	1,584	131

*: IFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」の適用により、修正再表示を行っております。
IFRS第15号適用前：1,469億円（調整額：△16億円）

事業部門別・地域別償却前営業利益^{*1} 2018年3月期第1四半期との比較



(億円)	2018年3月期 4月-6月期 ^{*2}	2019年3月期 4月-6月期	増減
事業別			
建築用ガラス	59	53	(6)
自動車用ガラス	40	49	9
高機能ガラス	11	18	7
その他	(19)	(18)	1
合計	91	102	11
地域別			
欧州	54	58	4
アジア	26	36	10
米州	30	26	(4)
その他	(19)	(18)	1
合計	91	102	11

*1: 無形資産償却前営業利益

*2: IFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」の適用により、修正再表示を行っております。
IFRS第15号適用前：92億円（調整額：△1億円）

連結貸借対照表

(億円)	2018年3月末*	2018年6月末	増減
資産	7,886	7,636	(250)
非流動資産	5,308	5,192	(116)
のれん・無形資産	1,697	1,662	(35)
有形固定資産	2,441	2,405	(36)
その他	1,170	1,125	(45)
流動資産	2,578	2,444	(134)
現金及び現金同等物	648	532	(116)
その他	1,930	1,912	(18)
負債	6,449	6,285	(164)
流動負債	2,550	2,125	(425)
金融負債	976	720	(256)
その他	1,574	1,405	(169)
非流動負債	3,899	4,160	261
金融負債	2,751	3,042	291
その他	1,148	1,118	(30)
資本	1,437	1,351	(86)
親会社の所有に帰属する持分	1,352	1,270	(82)
非支配持分	85	81	(4)
負債及び資本	7,886	7,636	(250)

*: IFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」の適用により、修正再表示を行っております。

[資産] IFRS第15号適用前: 7,919億円 (調整額: △33億円)

[資本] IFRS第15号適用前: 1,428億円 (調整額: +9億円)

連結キャッシュ・フロー



(億円)	2018年3月期	2019年3月期
	4月-6月期*	4月-6月期
当期利益	27	60
減価償却費	70	70
減損損失(戻入)	2	(26)
有形固定資産等売却益	(2)	-
法人所得税支払額	(14)	(32)
その他	(2)	18
営業活動によるキャッシュ・フロー (運転資本の増減考慮前)	81	90
運転資本の増加	(137)	(130)
営業活動によるキャッシュ・フロー	(56)	(40)
有形固定資産の取得	(66)	(64)
資産売却収入	3	1
その他	2	(3)
投資活動によるキャッシュ・フロー	(61)	(66)
フリー・キャッシュ・フロー	(117)	(106)

*: IFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」の適用により、修正再表示を行っております。
(フリー・キャッシュ・フローには影響はありません)

個別開示項目



(億円)	2018年3月期 4月-6月期	2019年3月期 4月-6月期
有形固定資産等の減損損失戻入益	-	27
保険金の受取による利益	10	-
リストラチャリング費用	(2)	(2)
設備休止に係る費用	(10)	-
その他	(2)	(1)
	<u>(4)</u>	<u>24</u>

ベトナムの休止フロート再稼働に伴う減損戻入を実施。
通期の個別開示項目はリストラ費用等の計上により計画並みの想定

為替レート



	<u>2018年3月期</u> <u>4月-6月</u>	<u>2018年3月期</u>	<u>2019年3月期</u> <u>4月-6月期</u>
期中平均為替レート：			
円/英ポンド	142	147	149
円/米ドル	111	111	110
円/ユーロ	122	130	131
期末為替レート：			
円/英ポンド	146	150	145
円/米ドル	112	106	111
円/ユーロ	128	132	128

NSG

GROUP

